

弘前城天守は
石垣改修に伴う
曳屋工事により
77.6メートル
移動しました！



参画だより

弘前市マスコットキャラクター『たか丸くん』

No.65

2018. 7. 31

弘前市民参画センター

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む
世界の格言・名言



希望は

目覚めている人間の

夢である

アリストテレス



弘前市民参画センター事業紹介「平成29年度第3回ひとにやさしい社会推進セミナー」 P 2

「弘前市女性活躍推進企業紹介」 P 3

「hirosaki smart project 女性活躍推進異業種交流会」 P 3

まなぼ「イクボスってどんなひと？」 P 4

おとこの気持ち聞いちゃいました「スローライフの人」 P 5

さんかくひとりごと「国民の祝福を受けて」 P 5

ひとグループ
男女・団体紹介「こころのよりどころとしての居場所作り」 P 6

利用者・利用団体紹介「アムネスティ・インターナショナル日本 弘前グループ」ほか P 7

本の紹介「未来のだるまちゃんへ」 P 8

センターからのお知らせ P 8



平成29年度第3回ひとにやさしい社会推進セミナー



講師の古村健太郎さん

3月14日、ひとにやさしい社会推進セミナーをヒロロスクエアで開催しました。今回のセミナーでは、弘前大学人文社会科学部講師の古村健太郎さんが「恋愛関係を心理学から考える」二人だけの世界がもたらす帰結は「幸せ」か「不幸せ」か」と題し講演しました。

社会的ネットワークと恋愛関係

古村さんは、恋愛関係はキスや性的関係での区別は困難で、告白と承諾で成立つ関係であると話し、「恋愛関係になると恋人以外とは恋人らしい行動はしなくなる。結婚は、法的な関係になり拘束力がさらに強くなる」と述べました。

恋愛関係は視野を広げると学校や職場などで繋がっている社会的ネットワークの一部分であるのに、二人だけの世界を作りやすいという特徴があるため、境界を作ってしまうことで外からは見えなくなりDVが発生しても助言や介入を

することが難しくなるのが大きな問題と指摘しました。

相互依存する恋人たち

古村さんは、恋愛関係には「安心の輪」という信頼関係があると話し、「恋人が居るからチャレンジしたり、慰めてもらったりできる。恋人を基地として外の世界へ冒険したりぐるぐる回る輪のように安全基地・避難場所へ戻ることができる」と解説。その基地になる関係は、幼児期は父母・養育者であり、大人になると友人・恋人に代わっていくと語りました。

恋愛感情と脳の神経伝達物質の分泌の関連から適応システムとしての恋愛関係が推測されると古村さん。「恋愛関係が進むと脳に快楽を感じる物質や母親が赤ちゃんに母乳をあげるときに出る神経物質と同じものが出る。そのため相手をケアしたい、世話したいという行動が引き出される」と語りました。

恋愛関係で満たされていた欲求が別れることにより満たされなくなり、是が非でも別れたくない続けたい気持ち（コミットメント＝関係継続意思）が強い場合、離脱

が難しくDVに繋がる可能性もあると説明。ある研究から、強いコミットメントの場合DVを受けた妻が一旦、夫から隔離されてもまた自分から戻ってしまうという結果を紹介。「妻が仕事をしていない、衣食住を夫に依存している状態では戻らざるを得ない状況となりDVの被害を拡大させている」と語り、恋愛関係でも二人だけの関係に労力を使い、社会的ネットワークが狭くなると問題が起こると話しました。

第3者の重要性？教育への挑戦

第三者の介入で大人側ができることは、リスクを伝える一次予防や早期発見をして問題行動を回避する二次予防。起きてしまったDVの再発防止をする三次予防があると紹介。

古村さんは、一次予防の研究としての介入について次のように話しました。「恋人からの暴言などに対して嫌だと言えない場合、後にDVを許すことに発展する。実際に学生に恋人のネガティブな行動に対して嫌だと主張するように教育し、後に面接をしたところ、多くの学生が嫌われたくない、怒られると怖いという理由で言えなかったと答えた。嫌だといえるよ

うに自分と対象者が相手への伝え方を話し合う行動計画を立てたことで、対象者自身が嫌だと伝えられるようになったと認識できる機会が増えた」と成果を報告。知識を啓発するだけではなく、一緒に考えて答えを導くような係わりが必要と語りました。

性感染症の危険性について古村さんは、初めて恋人ができた女性を例にあげ「彼氏の元カノの元カレをたどったとして避妊具を付けず性行為をしたHIVの感染者がいたら、相手とたった1回の性行為でもHIVのリスクはある。HIVの問題は身近な問題」と語りました。現在日本では若い世代の異性間梅毒も増えている状況も説明し、恋愛関係にまつわる感染症などのリスクや避妊具の利用などの対策についてしっかり教育することの大切さを述べました。



会場では質疑応答も行われ、来場者は相談を受けたときの対応の仕方や、性教育に関することなど熱心に聞き入っていました。

今年度で3年目になる「hirosaki smart project 女性活躍推進異業種交流会」の平成30年度第1回交流会を7月18日ヒロロで開催しました。

このプロジェクトは弘前市と弘前市の地方創生パートナー企業協定を締結している損害保険ジャパン日本興亜株式会社が事務局となり実施されています。参加団体の中には女性社員が少ない企業もあり、この交流会に参加することで、他の業種の女性社員との情報交換や、他の企業の「先輩」から育児と仕事の両立についての貴重なアドバイスを受けたりと、さまざまな刺激をもらえる機会となっています。今回は、弘前市女性活躍推進企業認定第1号となっている株式会社IMS代表取締役の三上友子さんが「女性が活躍するためのビジネスマナー」をテーマに講演しました。参加者は、女性38名とオブザーバーの計50名となり、ゲームでのアイスブレイク後は楽しい雰囲気での研修がはじまりました。講師の三上さんからは、最初にマナーの必要性の説明があり、挨拶

の大切さやお辞儀の仕方など、丁寧に教えていただきました。敬語のチェックシートを記入しながら普段何気なく間違っていたまっていた言葉遣いも学びました。三上さんの「マナーは相手を思いやる気持ちです」という言葉に参加者はうなずいて聞いていました。

最近では、女性社員のモチベーションアップが業績アップに繋がると考える会社が多くなっています。このプロジェクトは年度の途中での参加も可能です。自社では、なかなか機会が作れないと悩んでいる企業・団体のかたは、ぜひ弘前市民参画センターへお申し込みください。

ビジネスマナーのポイントを説明する三上さん



各企業などから集まった参加者の皆さん

★弘前市女性活躍推進企業紹介★

平成29年1月にスタートした「弘前市人口減少対策に係る企業認定制度（女性活躍推進企業）」ですが、今号では認定のメリットと、認定された企業の取り組みをご紹介します。

×メリット1

～金融機関の融資制度の金利が引き下げされます～

認定制度を支援している金融機関（青森銀行、みちのく銀行、東奥信用金庫、青森県信用組合、青い森信用金庫）では、認定企業及び従業員に対し、金利優遇の支援を行っています。

×メリット2

～総合評価落札方式による入札で技術評価点として加点されます～

建設工事（土木一式工事、建築一式工事、電気工事、管工事）の入札において実施している総合評価落札方式による入札制度で技術評価点として加点されます。

×メリット3

～女性活躍に関する研修等をご案内します～

県や市で主催する女性活躍に関する研修や講座の優先案内・情報提供が受けられます。



随時申請を受け付けています。

詳しくは、下記へお問合せか、市のホームページをご覧ください。

問合せ先：弘前市 市民文化スポーツ部 市民協働政策課

市民参画センター TEL0172-31-2500 FAX0172-36-1822



認定された企業のご紹介

認定マーク

認定番号	企業名	取組内容（一部）
第37号	株式会社 旭組	女性の活躍を奨励することや積極的な女性の採用を、就業規則で定めている。育児・介護のために短時間勤務や始業・終業時間の繰り上げ、繰り下げができる。・ハラスメントの相談窓口を設け、女性の働きやすさに配慮を行っている。

まなほ



このページは男女共同参画についての学びを深めようということから企画されているページです。

「イクボス」というと「イクメン」という言葉と重なり「イクメンたちのボス？」などと簡単に考える人はいないだろうか。初めてこの言葉を聞いた時には自分自身がそうだったから…。これからは職場のキーマンとなるであろう「イクボス」について考えてみた。

(身近なところで青森県のホームページ「増やそう、イクボス！～誰もが活躍できる環境づくりを～」を参考に)

～「イクボス」ってどんな人？～

◎ 「イクボス」とは

職場で一緒に働く部下やスタッフのワークライフバランス（仕事と生活の調和）を考えて多様な働き方とその人のキャリアと人生を応援しながら、しっかりとチームを管理し組織としての成果を出せる上司（経営者・管理職）のことである。そのためには上司自身のワークライフバランスも不可欠で、自身の仕事も私生活も大切にできる上司でもある。

- ・ 部下のワークライフバランスとキャリアを応援。
- ・ 組織としての成果をあげる。
- ・ 上司自身のワークライフバランスを実現。

これらが <イクボスの3要素> といわれている。

◎ なぜ今「イクボス」なの？

人口減少、労働力人口減少が進むなか、これまでのように働き方に制約のない男性正社員を中心に組織を構成することは限界にきている。また、夫婦共働き世帯の増加に伴い夫婦二人で子どもを育てる必要がある、親の介護を担う必要がでてくるなど、育児や介護のために時間や場所に制約のある働き方をせざるをえない人が増えている。また、仕事と同じように地域活動やボランティア活動、勉強や習い事、趣味といった私生活も大切にしたいという人もいる。

育児や介護、傷病、高齢などの理由で、従来であれば辞めざるをえなかったような、働き方に制約のある「人財」であっても、持てる能力を十分に発揮できる環境づくり、誰もが活躍できる組織にすることで、希望する働き方を実現できる期待などから優秀な「人財」の確保につながり、継続した就労が可能になることで「人財」の定着にもつながっていく。

誰もが働きやすい組織にするためには、経営者や管理職がワークライフバランスを実現できる多様な働き方の必要性を理解し、働きやすく生産性の高い組織となるように管理することが重要になる。「ボス」が変わることでその効果が大きく現れることを期待できる。「イクボス」が職場でしっかりと役割を果たすことで誰もが働きやすい職場環境が整備されることになる。

◎ イクボス宣言している企業はあるの？

最近では県内でも「イクボス宣言」をしている経営者、管理職がいる企業が増えているとのこと。青森県では「あおもりイクボス宣言企業登録制度」を設け、管理者等が「イクボス宣言」を行い、県に申し出た企業を「あおもりイクボス宣言企業」として登録している。登録企業の情報はホームページでも確認できる。「あおもりイクボス宣言企業」として登録されると、「あおもり働き方改革推進企業」の認証の一つである「働き方改革に関する風土づくりに努めていること」を満たす企業としてみなされることから企業のイメージアップにもつながる。

◎ ワークライフバランスの実践

ワークライフバランスとは、生活と仕事、どちらか一方を犠牲にするものではなく、そのバランスに決まりがあるわけでもない。結婚や育児、傷病など人生のタイミングによって仕事と生活のバランスは変わっていくのが自然である。生活と仕事の両立を支援する制度の導入だけでなく、制度を活用しやすい職場風土づくりや働く仲間が「おたがいさま」の気持ちで支え合うことができるよう公平性に配慮していくことがポイントになる。そこでも「イクボス」が要になってくる。

Q. 男女共同参画って知っていますか？

A. 知っている。説明はチョット…。

Q. 今までの職歴は？

A. 今は児童センターの仕事をしているが、その前は46年間、屋外広告美術業（看板屋）の職人だった。

Q. 職場（看板屋）に、女性はいましたか？

A. 俺が就職したころは映画の看板が主流だったので女性の職人はいなかった。今はパソコンでデータ作成やペイントを使用しないところの素材調べ等があるので女性もこの業界に入ってきた。

Q. 家庭で出来る家事はありますか？

A. やらうと思えば出来ると思うが、やったことはない。

Q. 奥さんが病気のときも？

A. 娘がやってくれた（高校生だったから）。

Q. 奥さんの趣味を知っていますか？

A. わからない。無いかも、俺も無いから。（笑）

Q. 旅はパートナーと？友人と？一人で？

A. 旅…。行かないな一。社員旅行くらい、かな。

Q. バイセクシャルの人たちをどう思いますか？

A. 自分とは関係がないと思うから批判はしないが、さて自分の身内となると考える。

Q. これからの女性に望むことは？

A. 社会に対して甘えないで、忍耐を養ってほしい。



70代・団体職員・既婚

インタビューを終えて

～スローライフの人～

ひとつの仕事を40数年続けて今、推薦され保護司をしている。仕事は大変だが異業種の人と交流できることが新鮮だと話す。出会ってから4回目には結婚していたというエピソードにはびっくりしたが、普段は自分から進んで話す人ではない静かな人である。この人の周りはゆっくり時間が流れているような気がする。 梅

～国民の祝福を受けて～



さんかくひとりごと

ニュージーランドの首相が第一子を出産、6週間の産休に入るというニュースが流れていた。首相が産休の間は副首相が首相代行するとのこと。国民からも母親になった首相への好意的な祝福と応援メッセージがあった。

家庭を大切にするニュージーランドでは、母親になるという選択をした女性を、周囲の人が積極的にサポートすることが多いという。それは首相であっても変わらない。妊娠報告をした時に、アーダーン首相が「初めての子を育てる私たちをニュージーランドが支援してくれるだろう」と語ったというが、子育ては母親だけが責任を負って行うのではなく、父親はもちろん、周囲の皆の手を借りながら行われるものだという考え方が根づいているからこそその言葉なのだろう。

ニュージーランドの女性が、世界に先駆けて選挙権を得てから125年。首相職と育児を両立する一人の女性として国民は応援している。国会議員の4割を女性が占めるというニュージーランドに対して日本は足元にも及ばない。今、衆議院で女性の占める割合は1割程度だという。まだまだ「政治は男の仕事」という考え方が強いのだろうか…。

アーダーン首相は出産前に「すべての女性がスーパーウーマンであるべきだ」という間違った印象は与えたくない。自分がやるべきことをこなせているのは、ものすごく多くのサポートをしてもらっているからで、私はかなり特別だと思う。」と語っていたという。感謝する気持ちがあるからこそ国民の応援を得られるのだろう。久々に素敵なニュースだった。



～いっしょのよろづいっしょ～

居場所作り



弘前大学公認サークル「teens&law」

元代表 山口 夏輝さん

弘前大学公認の学生ボランティアサークルで、法律と子どもに関する活動を行っている「teens&law」元代表の山口夏輝さんにお話を伺いました。

★活動内容は

もともとの成り立ちは、2005年の青森家庭少年問題研究会からだと聞いています。家庭裁判所での試験観察中の少年に対する学習支援などが契機となり、その中の学生部会が「Teens & law」に名称を変更しました。

このサークルでは、大きく分けて二つの分野にわたって活動をしています。一つは法律分野（law）での活動ともう一つが少年問題（teens）での分野です。

私が主に参加しているのは「Teens」の活動です。子どもの支援活動は、現在定期的にやっている青森県立子ども自立センター「みらい」での学習支援。弘前母子寡婦福祉会さんが開催している「サタデイ☆くらぶ」の学習支援。最近ではNPO法人マザーフィールドさんと一緒に子どもたちの居場所作りを兼ねて、夕食タイムを設けた学習会も始めました。

★サークルに入ったきっかけ

もともと教師を目指し教育学部に入り、子どもにかかわることを何かやりたいと思っていた。学部の勉強の中では、子どもたちと接するのは教育実習が主で、環境に恵まれた子どもたちではないかと考え、いろいろな境遇の子どもたちとかかわりたいと思い、「teens&law」に入りました。

★支援活動で心がけていること

自分が楽しむことです。子どもたちに勉強を教えたり相談に乗ったりするとき、自分たちは何かを教える立場でありながら子どもたちに「こういうことを言ったらどんな反応が返ってくるのか」ということを学んでいます。「してあげる」という姿勢で臨むのではなく「子どもとか



マザーフィールドとの活動の様子(上)商工会議所での学習支援(下)ヒロロにて食生活改善推進員の方と夕食の準備

かわる機会を与えてもらっている」という気持ちを大切にして子どもたちに接しています。

★大変だったこと

2年生のときに人数が少ない状態で代表を任せられました。サークルに入ってもやめてしまった、後輩の加入も少なかったです。ボランティアサークルはどうしても活動の中でしか学生同士の接触がないため、つながりができにくい状態でした。そこで月一回メンバー同士が楽しめる活動を企画したところ仲良くなり、組織としての縦と横のつながりもできて人数が増えていきました。大変でしたが得ることも多かったです。

★ボランティアの経験から

以前はいろいろなことをやっていて「いつも忙しい」と思っていました。大学生は誰かにやらされている義務感は少しも無い」と思い「大学生は忙しくない」というのを根本におき活動するようになり、考え方が大きく変わりました。

サークル以外のボランティア研修の中で「良い指導者という

teens&lawのメンバー



サタデイ☆くらぶの様子

のは、良い体験者でなければいけない」と言われました。それからは人に説明して納得してもらうには、自分自身が見て、聞いて、感じる事が大切だと思いい、体験し得た発見も学びだと思つてやっています。

子どもって天才だなと思います。一緒に遊んでいるときに一番顕著に感じます。自分たちが考え付かないような遊び方を思いついて、それが楽しい。いろいろな意味で子どもは自分にとって先生でもあるなと思います。

★サークルのこれから

サークルの活動自体があまり人の目に触れないので、もっと広くみなさんに活動を知ってもらい認めてもらいたいです。活動の見学などは自由なので、連絡頂ければと思います。

連絡先 <ymc0824@gmail.com>



世界人権デー企画「ライティング・マラソン」
世界中で不当に拘束されている方々の釈放を
求める手紙作成の様子（2017. 12. 7）

来年は結成30周年を迎えます

アムネスティ・インターナショナルは1961年にイギリスで生まれた国際NGO（非政府組織）です。その活動は、一言で言うところ「世界人権宣言の精神の実現」を目標とするものです。具体的には思想信条や宗教、言論、または社会的身分などを理由に捕らえられたり、迫害を受ける非暴力の人たち、多くは無名の一般人である「良心の囚人」の釈放を求めて、各国の首相や大統領、責任者にダイレクトメールを出したり、人権救

アムネスティ・
インターナショナル日本
弘前グループ

弘前市民参画センター利用団体紹介

センター利用者に突撃インタビュー

70代・男性

◆センターの利用目的と利用頻度は？

個人的には散歩コースの合間に立ち寄り、新聞を見たり情報誌を読んで情報を収集したりしています。また、同窓会の打ち合わせや趣味などの文章整理などに使わせてもらっています。頻度は多いときには週3～4回、少なくとも週1回は利用しています。

◆センターを利用して感想をお聞かせください。

コピー機や印刷機などを使うときに、職員さんに聞くと優しく教えてくれます。ありがたいと思っています。

◆センターに要望はありますか？

いつも掃除が行き届いていて気持ち良く使わせてもらっています。私は自転車で来ているので不便はないですが、車を利用している人からは、駐車場が少ないという声は聞きます。それから、3階のグループ活動室を利用していたとき、隣から声漏れがしていて気になることがありました。何か良い対策があるといいですね。

◆「男女共同参画」についての感想をお聞かせください。

何回も「男女共同参画」という言葉を聞いていますが、正直きちんと理解していないのではないかと思います。女性の目から見ての声をもっとあげてほしいですね。私は「対話と交流」を大切にしています。お互いのままを認め合い、意見が言えるようになったときにヒントが生じるのではないのでしょうか。今後に期待します。

◆「今、一番」の楽しみは何でしょうか？

家で大好きな池上彰さんのテレビ番組を見ながら晩酌するのが楽しみです。子どもにも大人にもわかりやすく説明してくれる教養がある人です。歴史物も好きです。まだまだ世の中のことが知りたい、興味を持ち続けていきたいと思っています。

いろいろなことに興味を持っていらしゃるので年齢よりずっと若く感じました。お話が上手で楽しく聞かせてもらえたので時間もあっという間に過ぎてしまいました。素敵に過ごしておられる様子がうらやましく感じました。
by のん



経済を国内外の世論に訴えたりすることです。こうした政治的・宗教的に中立な国際的活動が認められ、1977年にはノーベル平和賞、翌年には国連人権賞を受賞するなど国際的な評価を得ています。また、他に重要なテーマとして死刑制度の廃止を訴えたり、近年では難民救済やLGBT差別に反対するキャンペーン活動にも取り組んでいます。

日本には支部として「公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本」があります。

私たちの弘前グループは賛助会員を含めて現在18名ほどの小さな団体ですが、青森県内唯一のグループとして「人権」という大きなテーマに必死に取り組むうちに、来年メダタクも結成30周年の節目を迎えることになりました。

慎ましい例会ですが、「人権」や「自由」に関心のある方の学や飛び入り参加を心よりお待ちしております。

アムネスティ弘前グループ
運営担当 横田郁子



平成29年度利用状況報告

☆弘前市民参画センター

★センター利用者数

利用場所	利用者数	
	29年度	28年度
グループ活動室	14,528	15,019
ふれあいホール等	9,638	10,059
利用者数計(小計)	24,166	25,078
見学者	5	16
合計	24,171	25,094

★活動室利用目的別件数・人数

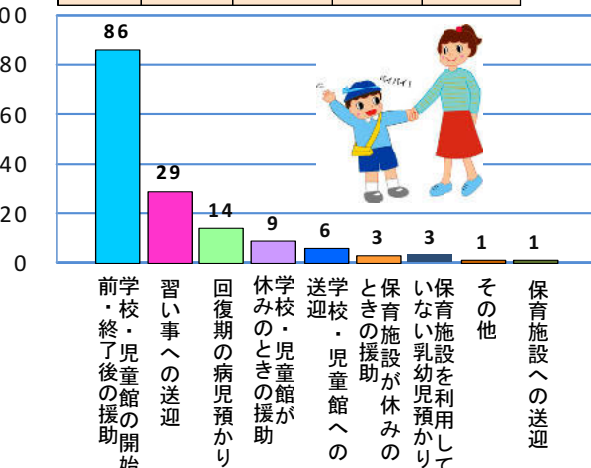
利用目的	利用団体		公共団体		一般団体		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会議	15	245	288	3,405	303	3,650		
講習会・研修会・勉強会・講座	4	223	783	9,815	787	10,038		
講演会・フォーラム	0	0	7	265	7	265		
その他	14	447	11	128	25	575		
合計	33	915	1,089	13,613	1,122	14,528		

☆子育てサポートシステム さんかくネット

★さんかくネット利用件数・人数

利用件数	29年度		28年度	
	依頼件数	預かり人数	依頼件数	預かり人数
個人	118	130	240	269
団体	35	62	29	78
計	153	192	269	347

★さんかくネット利用内容別件数(個人) ※複数依頼含む



●臨時休館日●

市民参画センターは
8月28日(月)・29日(火)の2日間、
施設点検等のため休館します。



編集後記

読む側から作る側へ、参加者から主催者へ立場が変わり、内側から見ると、また新たな気付きがあり「わくわく」しています。インタビューを見ている、好奇心あふれる方は、いきいきしていて年齢よりお若く感じました。自分もあやかれるよう頑張ります。直

本の紹介

タイトル

「未来のだるまちゃんへ」

著者 かこさとし
発行所 文春文庫



～子どもたちが先生だった～

今年の5月初め逝去された絵本作家である著者が自叙伝として残した本である。5年前、88歳の時に書いたものである。「だるまちゃんシリーズ」は読んだことがなくても多くの人が書店で見かけたことがあるのではないだろうか。

敗戦を迎えた時19歳だった著者は近視が進んで軍人にはなれなかったが、軍人を志した同級生たちはみんな死んでしまった。自分はその生き残り…というより「死に残り」という思いが強く、死に残りの自分は何の償いもできずにおめおめと生きていくのかと考えると本当に自分がだらしなく、はずかしい大人であり必要のない人間に思えたという。

自分は何をすればいいのか、どうしたら生きていけるのか、なかなか出口の見えない自問自答の日々を送り、行き着いたところが子どもたちのために何かお役に立てないだろうかということだった。これから生きていく子どもたちが自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の力で判断し行動する賢さを持つようになってほしい。と考えた時、昭和20年からの著者の人生が始まったように思えたとのこと。

本の中には著者が「不肖の父」と呼ぶ父親とのやりとりが出てくる。子どものことを思っているようで何にもわかっていないという父、「いるよなあ～こんな大人」自分も含めてだけど…。

著者がこれまで出会った子どもたちの行動から見えてくること、感じたことなど満載である。大事なことはすべて子どもたちから教わったと記す。子どもたちの自由な遊びの中から、未知数で意外性の満ち溢れたエネルギーを感じとる。このエネルギーこそが子どもの生きる力、可能性そのものだという。

by komori

【参画だよりに関するご意見、ご感想をお寄せください】



弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/sankaku/>

(市民文化スポーツ部 市民協働政策課 市民参画センター発行)

